

ディプロマポリシー, 15単位, 24単位, 20単位, 28単位, 22単位, 109単位. 学部 工学部. 前期・後期. 分野: 数理科目, 学際科目, 専門横断. カリキュラムポリシー: 環境工学分野, 都市計画・自然共生, 資源・エネルギー, 環境工学研究法, 環境工学に関する研究活動, 環境工学に関する研究活動, 環境工学に関する研究活動, 環境工学に関する研究活動.

ディプロマポリシー. 4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。 <工学部> 1) 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく在学後にわたって主体的に学修活動を行い、心と意欲を継続できる。 2) 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術者に求められる幅広い教養とスキルを身につけ自ら活用できる。 3) 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、社会や時代の要請に応じてそれを実践的に活用できる。 4) 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。 5) 社会的課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。 6) 地球規模の視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を醸成し、社会に能動的に貢献する行動力がある。

分野別到達目標. グローバル化の時代に対応できる社会人の実践的スキルを身に付け、高い専門性・技術力を発揮し、社会に貢献できる。 工学部ディプロマポリシーに基づき、専門分野の基礎と実践力を継承できるよう、学位として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。 (A) 資源・エネルギー、都市計画、自然共生に関する問題と、工学・理学・農学・社会科学の視点から、改善策を立案できる。 (B) 資源・エネルギー、都市計画、自然共生に関する問題に対し、集団で意見交換しながら課題を明確化し、知識を共有することを通して対策を立案できる。 (C) 地球および地球環境問題の現状と技術者として関与する意義をもち、従事する実務・実業を継承しつつ、技術的かつ政策的な視点から、その手法について説明できる。 (D) 自然・社会現象の計測・測定と、物質収支やエネルギー収支の定量的な取り扱いができる。その内容を客観的に分析・評価し、他者と協議できる。 (E) 世界各地で生じている環境問題に広く目を向ける国際感覚を持ち、習得した環境技術や自らの問題意識を、国際的に正しく情報発信できる。

2, 1, 4. 前期・後期. 分野別到達目標. 工学部ディプロマポリシーに基づき、専門分野の基礎と実践力を継承できるよう、学位として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。 (A) 資源・エネルギー、都市計画、自然共生に関する問題と、工学・理学・農学・社会科学の視点から、改善策を立案できる。 (B) 資源・エネルギー、都市計画、自然共生に関する問題に対し、集団で意見交換しながら課題を明確化し、知識を共有することを通して対策を立案できる。 (C) 地球および地球環境問題の現状と技術者として関与する意義をもち、従事する実務・実業を継承しつつ、技術的かつ政策的な視点から、その手法について説明できる。 (D) 自然・社会現象の計測・測定と、物質収支やエネルギー収支の定量的な取り扱いができる。その内容を客観的に分析・評価し、他者と協議できる。 (E) 世界各地で生じている環境問題に広く目を向ける国際感覚を持ち、習得した環境技術や自らの問題意識を、国際的に正しく情報発信できる。

2, 1, 4. 前期・後期. 分野別到達目標. 工学部ディプロマポリシーに基づき、専門分野の基礎と実践力を継承できるよう、学位として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。 (A) 資源・エネルギー、都市計画、自然共生に関する問題と、工学・理学・農学・社会科学の視点から、改善策を立案できる。 (B) 資源・エネルギー、都市計画、自然共生に関する問題に対し、集団で意見交換しながら課題を明確化し、知識を共有することを通して対策を立案できる。 (C) 地球および地球環境問題の現状と技術者として関与する意義をもち、従事する実務・実業を継承しつつ、技術的かつ政策的な視点から、その手法について説明できる。 (D) 自然・社会現象の計測・測定と、物質収支やエネルギー収支の定量的な取り扱いができる。その内容を客観的に分析・評価し、他者と協議できる。 (E) 世界各地で生じている環境問題に広く目を向ける国際感覚を持ち、習得した環境技術や自らの問題意識を、国際的に正しく情報発信できる。

分野: キャリア形成の基礎, 工学の基礎, 数理学と教育, その他連携科目. 基礎科目, 資源・エネルギー分野, 自然共生分野, 都市計画分野, 技術一般分野. カリキュラムポリシー: 工学部ディプロマポリシーに基づき、専門分野の基礎と実践力を継承できるよう、学位として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。 (A) 資源・エネルギー、都市計画、自然共生に関する問題と、工学・理学・農学・社会科学の視点から、改善策を立案できる。 (B) 資源・エネルギー、都市計画、自然共生に関する問題に対し、集団で意見交換しながら課題を明確化し、知識を共有することを通して対策を立案できる。 (C) 地球および地球環境問題の現状と技術者として関与する意義をもち、従事する実務・実業を継承しつつ、技術的かつ政策的な視点から、その手法について説明できる。 (D) 自然・社会現象の計測・測定と、物質収支やエネルギー収支の定量的な取り扱いができる。その内容を客観的に分析・評価し、他者と協議できる。 (E) 世界各地で生じている環境問題に広く目を向ける国際感覚を持ち、習得した環境技術や自らの問題意識を、国際的に正しく情報発信できる。

ディプロマポリシー. 環境工学科は、身近な環境から地球規模に至るあらゆる環境問題を解決するための、工学技術的あるいは政策的な手法を身につけた人材を養成します。 (求める人物像) 1) 環境問題に関心があり、技術や政策を通じて解決に貢献したいという情熱を持っている人 2) 身の回りの地域とともに、地球規模の環境問題解決についてもかかわってきたい人 3) 理科や数学が好きで、その能力を発展させて実際の問題解決に応用したいと思っている人 4) 実験や野外調査に興味があり、それらを通して現象を解明する能力を身につけたい人